

留学生と“稲刈り&芋煮”楽しく交流!

TNC
通信

2019
10月号

中国古典から

「螳螂(とうろう)の臂を怒らして以つて車軼に当たるが如し」(荘子)

カマキリがそのカマを振り上げて車の車輪に立ち向かう無謀の譬えで、ドン・キホーテだ。他の虫へならともかく自分の力、敵の力を知らない事からくる。



10年振りとなる留学生等を招いての「稲刈り」が9月22日、松田副会長宅の田んぼで行われ、5月に田植えして豊かに実った“ひとめぼれ(一目鍾情)”の収穫を行いました。鎌を使っての稲刈りや束ねての稲掛けと、皆さん初めての体験でした。お昼は豚汁とおにぎり、スイカなどを食べながら、自己紹介など歓談しました。ご協力いただいた皆さん大変ありがとうございました。



19日に「碑前祭」

恒例の魯迅先生の碑前祭が行われ、献花式があります。本年は逝世83周年、また仙台留学115周年の佳節でもあります。10時半から、仙台市博物館横で、有志による中国舞踊も予定。

県協会定期総会行う

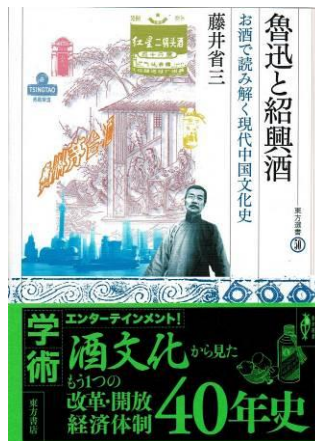
8月31日仙台市内で行われた定期総会では殷達奇・新潟総領事館副総領事から中国成立70周年を記念しての講演があり、また富谷日中・横山弥生副会長が副理事長に就きました

蜀パンの旅 ⑤ “三星堆博物館”

世界遺産の三星堆遺跡は成都から41km北。近代的な博物館は古蜀(前11世紀以前)の青銅器、玉器、金器、象牙等が二つの大きな展示館に展示されている。この日も多くの中学生のグループが見学学習に来ており、にぎやかであった(写真⑤)。全体が公園になっている。4月なのにセミの声がミンミンと地名故か三声だった。



注目は得意で奇抜な宇宙人のような青銅仮面や人頭像(写真⑥)。始祖である蚕叢(さんよう)の形象だと言われている。この他、立人や樹木が铸造されており、驚きの言葉しかない。



『魯迅と紹興酒』藤井省三著

10月19日は魯迅の命日という事で紹介したが、中味は魯迅も書かれているが副題の通り「お酒で読み解く現代中国文化史」だ。魯迅研究第一人者の著者が公宴・私宴の場での体験を踏まえ中国各地の文化、個性、風景を語る。北京編、上海編、地方編に香港・台湾編それにチャイナタウンの世界編から成る酒宴の旅でもある。

魯迅に関連していえば『狂人日記』の新聞広告と当時の食人のニュースの兼ね合いで刊行が一月ずれると『狂人日記』の解釈が違ってくるとか、短編『酒樓にて』での友人と紹興酒の杯を重ねての語らいと五四運動等で革命前夜のような青年たちの盛り上がり比べ、魯迅の辛亥革命における挫折感と共産主義革命に対して抱いていた一種の危機感が、読み取れると分析する。お堅い内容もあるが、筆者の留学時代や研究のため各国を回った折りの、ビール、ワイン、白酒や飲み方おつまみ等、

shu ben

多くの酒談義が読者を魅了し、面白い。(東方選書、2000円+税)